

**オーストラリア**は2度目の訪問になる。8年前に地元南幌町のラジコンヘリの研修旅行で、シドニーとコメ生産で有名だったリートンに行った。今回は隣町、長沼町のあのヒール・ミヤイさんたちと7名で現地のファームショーと農場視察を行なう計画を昨年から進めてきた。3月1日から6日間、**2100km**

**走破のツアー**が始まった。  
あつ、忘れていました。自己紹介をします。私の名前は岡部陽助、北海道・南幌町でコメ、大豆、小麦をつくっている長身のニヒルな33歳の独身です。

日程や訪問先などの細かいことはミヤイさんの頭の中にしかなかったので、水戸黄門の八兵衛旅行になる可能性を心配していた。千歳から香港経由で朝食におかゆを食べて、シドニーに着いたのがお昼頃。ミヤイさんはホテルに着くまでタクシーの運転手と「マイト！(仲間)」「グッドオンニユー！(いいね)」を連発しながら話をしていった。半日バスツアーの45歳のツアーガイドは福島に留学経験があり、シドニーに2人、東京に1人日本人の彼女がいると自慢していた。

彼はユダヤ系で戦後、父とイスラエルからやってきたという。シドニー湾の東部地区はさびれた漁村だっ

たが、ユダヤ人の入植が始まり、土地を安く購入して家を建てた。今ではその一戸建ての住宅を最低でも5000万円にまで上昇させたと自慢していた。もちろんその背景にはすべてが2倍に上昇した2000年に開催されたシドニーオリンピックのバブルがあるようだ。

その後トヨタ・ハイエースの11人乗りを借りてシドニーを離れ、300kmほど内陸にある人口1万2000人のカウラに向かった。

### 「日本人戦没者之墓」へ

皆さんはこの小さな町で何があったがご存じですか？

このカウラには第二次大戦中1104名の日本人(日本兵、台湾人、朝鮮人)とイタリヤ兵などの枢軸国の**捕虜収容所**があり、1944年8月5日に日本人捕虜脱走事件があった。トレットペーパーの切れ端で脱走の可否を決め、武器らしい武器を持たないで捕虜の1/4の231名とオーストラリア兵4名が命を落

## Vol.63 「キンジョウって、誰だ？」



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

とし108名が負傷した。

結局、脱走に成功した者はいなかったが、脱走兵にお菓子を出した家族とはその後数十年後に再開するドラマも生まれている。

ミヤイさんからは日本出發に先立ち、今回のツアー参加者全員に「各自が**最高と思うお酒を持参するように**」指示があった。

たぶんお土産に使うのだからと思ったし、そんなのミヤイさんが自分のお金で買

# オレにも 言わせる! 北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

えばいいのに正直、セコイなーと思  
っていたら予想と違っていた。

事前にこのカウラに何のために行  
くのか知らされていなかったし、カ  
ウラに到着しても、なんか墓地みた  
いなところに案内されて、みんな困  
感した表情だった。ミヤイさんが「日  
本人戦没者之墓」を見つけるとやっ  
と事の成り行きが見えてきた。

各自持参したお酒を1個ずつ墓石  
に捧げ、最後に日本の水で清めなが  
ら「**のどが渴いていたでしょ  
う、しつかり日本のお酒と水  
と飲んでください**」と言った。

その後、ミヤイさんの掛け声で「整  
列、気をつけ、礼」と素直に頭を下  
げることができた自分に驚いた。私  
の同級生の多くが君が代を歌えない  
し、学校の入学式や卒業式では校長  
や教頭以外の先生たちは歌いもしな  
いし、起立することもなかった。北  
海道の典型的な左翼環境で教育を受  
けたのに、今いる自分はやはり先人  
たちの影響を受けた日本人だと感じ  
てしまったのだ。

墓地を散策していると、誰かがあ  
る石碑に書かれた文字を読み出し  
た。

「キンジョウウって誰だ?」

よく見ると当時の皇太子と皇太子  
妃つまり現在の今上天皇と皇后が73  
年に訪れ、記念に作られた物のよう

だった。実は日本に帰ってからのこの  
ことを知人に話すと「天皇なんて!」  
という声も聞きたがやはり、ツアー  
に参加して少し考えが変わったかも  
しれない。

このカウラの収容所跡にはイタリ  
ア兵の記念碑もあった。日本人の物  
より大きくても、手入れは行き届い  
ていないようだった。オーストラリ  
アには日本人の数十倍ものイタリア  
人移民が長年住んでいるにもかかわ  
らず、とても残念なことだと感じた。

現地の人たちが戦後70年になろう  
とする今でもこの墓地を管理してく  
ださっていることには感謝の気持ち  
だけでは表せないだろう。もし日本  
が中国や北朝鮮と戦争になり、彼ら  
と日本本土で戦ったとして、終結後  
に同じことを彼らのためにできる器  
を持っているか、もしかして今の日  
本人は試されていると感じた。

「生きて虜囚の辱めを受けず、死し  
て罪禍の汚名を残すこと勿れ」

ん〜自分ならどうするかとみん  
なで話をしていたら、ミヤイさんは  
これも今回のツアーの目的だよとで  
も言うのかと思ったら、真顔で「**や  
っぱり金髪・ブルーアイと仲  
良く遊ぶのが最高でしょ♡**」  
と言いつつ放った。

その晩、カウラに泊まると、フロ  
ントの人は「最近日本人の人が多い

のよ」と言っていた。捨てたもんじ  
やないよな、美しき日本人。

## 農地の価格、20年間で15倍に

翌日は400kmを4時間かけて南  
下してニューサウスウェルズ州・ジ  
ユリルデユリを目指し、ミヤイさん  
が78年当時に働いていた農場主のジ  
ョンの家族に会いに行った。彼らの  
住む町でビールを3ダースほど買っ  
てから、事前にグーグル・ストリー  
トでジョンの自宅の画像を持参して  
いたので、迷わず到着することがで  
きた。

自宅に案内されると、奥さんのウ  
イルが冷たい飲み物を用意してくれ  
た。ミヤイさんにはミルクティーが  
用意されていた。その当時からコー  
ヒーではなくミルクティーを愛飲し  
ていたようで、ウイルはそのことを  
覚えていてくれたのだろう。

実は、ジョンは00年にこの土地に  
やってきたそうだ。以前はもっと南  
に住んでいたが、1000haの小麦  
と大麦、羊の経営では成り立たない  
と考え、2年間オーストラリア各地  
を不動産業者と探しまくったこのこ  
と。現在は息子のトロイにその経営  
を任せ、ゴルフ三昧の日々を送って  
いるそうだ。

で、**新天地での経営**はどうだ  
ったのか? 大成功のようだ。00年

当時の農地の値段が162豪ドル/  
haで現在は2500豪ドル/haに急  
上昇し、この地域の3/4の農家が  
この20年間で入れ替わったという。

まだピンときませんか? 単純に  
農地の価格が15倍に上がったので  
は、日本の都市の農地が高いのと同  
じで何の意味にもならないが、この  
ような言い方はどうだろうか。昔か  
ら同じ所に住んで、昔と同じことを  
やって、昔と同じ作物をつくって、  
人と農業に投資をしなかった者は消  
えてしまった。そして現在の25  
00豪ドル/haになるまでに**農地  
を増やした生産者の経営は明  
らかに良くなった**そうである。

ティ(オージーの夕食)の最中、  
ジョンの息子トロイがこんなことを  
聞いてきた。

「ところで、クジラの問題を日本で  
はどのように考えているんだ?」

するとミヤイさんは、  
「大丈夫、日本は違法なことは何も  
やっていない、誰が調査船に嫌がら  
せや攻撃を加えても日本から先制攻  
撃を加えることはない。もしそれを  
必要とする時が来たらしつかりカメ  
ラに収めて誰が見ても納得がいく方  
法で反撃を加えるよ、昔パールハー  
バーやダーウィン攻撃から学んだか  
らね♡」(続く)